

27U-pm04S

病院内メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の変化

○高玉 駿介¹, 中南 秀将¹, 野口 雅久¹ (¹東京薬大薬・病原微生物)

【目的】 近年、世界各地で、市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (CA-MRSA) の流行が大きな問題となっている。それに伴い、病院内への CA-MRSA の流入が増加し、入院患者から分離される病院内 MRSA の特徴が変化してきている。本研究では、病院内 MRSA の分子疫学的特徴の変化を明らかにし、その原因について研究した。

【材料・方法】 東京都に位置する 10 病院において、2009 年から 2014 年に分離された MRSA 4,383 株を使用した。分子疫学的解析は、Staphylococcal cassette chromosome *mec* (SCC*mec*) typing、薬剤感受性試験、pulsed-field gel electrophoresis (PFGE)、multilocus sequence typing (MLST) により行った。

【結果・考察】 従来、病院内 MRSA は、SCC*mec* type II 株が主流であったが、2014 年には CA-MRSA に多い type IV 株が主流となった。SCC*mec* type IV 株について MLST 解析を行ったところ、2011 年では病院内 MRSA に多い Clonal Complex (CC) 5 クローンが主流であったのに対し、2014 年では CA-MRSA に多い CC1 クローンが主流となっていた。PFGE 解析、患者の診療科、MRSA の薬剤感受性から、CC1 クローンは市中から流入した可能性が示された。さらに、CC1 クローンの増加に伴い、病院内 MRSA 全体の抗菌薬感受性が向上していた。この変化の一因を明らかにするために、SCC*mec* type IV 株について増殖能を比較したところ、CC1 クローンは他のクローンに比べ有意に速いことが明らかとなった。これらの結果より、CC1 クローンは病院内 MRSA の主流なクローンになりつつあり、病院内 MRSA のポピュレーションが変化していることが示唆された。

会員外共同研究者：藤井毅 (東医大・八医セ)